



令和6年度 『佐那河内果樹アグリスクール』 生徒を募集します!

佐那河内村では、果樹の栽培技術の向上と継承を目的に、『佐那河内果樹アグリスクール』を開催しています。令和6年度は6月から翌年3月まで、計10回の講義を予定しています。

果樹の栽培技術向上のため、『佐那河内果樹アグリスクール』と一緒に果樹の栽培技術を学びませんか？果樹経営の代表者はもちろんのこと、補助的に果樹経営に関わっている方もぜひ受講してください。

応募期間

令和6年6月7日(金)まで

募集対象

新規就農者・農業担い手・UターンやIターンなどで就農を目指す方
【農業担い手の場合は、世帯内で果樹の販売実績のある方】

受講料

佐那河内村在住の方や村内で耕作されている方(予定者含む)は無料です。
※村外在住の方でも、資料代等として5,000円ご負担いただける方は受講できますので、お問い合わせください。

定員

10名程度

申込方法

裏面の応募用紙に記入の上、産業環境課に提出してください。

講義内容

次の予定で行いますが、荒天等により日程を変更する場合があります。また、第2回以降の開催日については、現在講師と調整中です。

回数	開催日	主な内容	
		午前(10:00～12:00)	午後(13:00～15:00)
第1回	6月28日(金)	開校式(9:00～)	病虫害防除の基本について(座学)
		果樹の総論と経営について(座学)	
第2回	7月上旬	すだちの摘果・摘葉(実習)	土づくりと施肥について(座学)
第3回	8月下旬	みかんの栽培について(座学)	果樹栽培暦のポイントについて(座学)
第4回	9月中旬	すだちの栽培について(座学)	すだちの収穫と貯蔵(実習)
第5回	10月中旬	流通と市場について(座学)	鳥獣害の対策について(座学及び現地研修)
第6回	11月上旬	キウイ・柿の栽培について(座学)	キウイの収穫・貯蔵(実習)
第7回	1月上旬	苗木植え付けと幼木管理について(座学)	キウイの剪定(実習)
第8回	2月中旬	ゆずの栽培について(座学)	すだちの剪定(実習) 13:00～15:30
第9回	2月下旬		みかんの剪定(実習) 13:00～16:00
第10回	3月中旬		接ぎ木について(実習)
			修了式(15:00～)

※8割以上の出席で修了証書を交付します。

※軍手・タオルなどは持参してください。

※昼食は各自ご用意ください。

お問い合わせ・お申し込み

〒771-4195 佐那河内村下字西ノハナ31番地

佐那河内村役場 産業環境課

TEL 088-679-2115 FAX 088-679-2125

令和5年度 佐那河内果樹アグリスクール 実績

「すだちの栽培について」

令和5年9月12日(火)

講師 徳島県立農林水産総合技術センター
農産園芸研究課 安宅 秀樹さん

すだちの栽培特性や栽培適地、土壌管理や肥培管理などのお話がありました。特に貯蔵については技術が必要で、まずは緑色の濃い果実をつくるのが大切であり、収穫時も果実に傷をつけず衝撃を与えないように丁寧に扱うこと、ビニールを破らないためにヘタを残して水平に切ることが大切であるとのことでした。冷蔵庫に入れる前には水分を減らす予措が必要で、予措が弱いと腐敗果が増え、強すぎると果実の黄変が早くなるとのことでした。温度管理の目安として10月上旬に5℃、年末までに3～4℃、年明けから3℃前後に調整するのですが、家や環境によって違いがあるため、各戸での対応が必要であるとのことでした。貯蔵は管理が難しく、特に年明け以降3月までの長期貯蔵はロスも多く技術が必要であるとのことでしたが、来年より苗木が導入される「勝浦一号」は貯蔵に適しており、今後の貯蔵用のすだちとして期待が持てると感じました。



「果樹栽培暦のポイントについて」

令和5年9月28日(木)

講師 徳島市農業協同組合
南部営農経済センター 長谷部 秀明さん

まずは、果樹の生育ステージとして、温州みかん・すだち・ゆず・キウイ・うめについて、年間の生育状況や作業の説明がありました。その後、それぞれの果樹について、栽培暦を活用しながら防除や施肥についての詳しいお話がありました。すだちは、かいよう病に弱く、かいよう病は発症してからでは遅いため、適期に防除することが大切であるとのことでした。また、キウイは、冬場の剪定だけでなく、夏場に剪定することで実に光をあてることができるとのことでした。



「流通と市場について」

令和5年10月13日(金)

講師 徳島青果(株)専務取締役 山田 靖仁さん
JA全農とくしま 園芸部 部長 二木 伸一さん

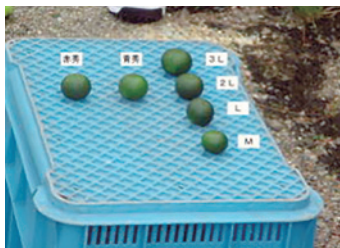
徳島市中央卸売市場の見学とあわせて講義を実施しました。初めに徳島青果(株)山田専務より、市場の概要と現在出荷されているサツマイモや早生ミカンについて、お話がありました。出荷方法について、個選個販や共選共販がありますが、味の良い農家は、単価も高く取引されるとのことでした。場所を会議室に移し、山田専務からは市場の機能や2022年産の取引状況、2023年産の野菜や果実のトレンドなどのお話を聞くことができました。野菜ではトマト、果実ではシャインマスカットが人気でした。また、JA全農とくしま二木部長から耕地面積は減少しているが、1経営あたりの経営耕地面積は拡大していること、スマート農業の市場規模が拡大予想されることから、担い手の確保とともに生産の効率化と高度化が必要であるとのことでした。消費や市場規模も変化しており、それぞれの課題に対応することが必要であるとのことでした。最後に、すだちが「徳島すだち」の名称で令和5年3月31日に地理的表示(GI)の認定を受けたとのことでした。



「すだちの収穫」

令和5年9月12日(火) 講師 大仲 保さん

柏木さんの園地をお借りし、すだちの収穫の実習を行いました。現在、佐那河内村で研修を行っている農水省の職員や四国大学との連携事業として、四国大学短期大学部の先生と留学生も参加しました。講師の大仲さんから、収穫の方法を聞いた後、2～3人1組になって収穫を行いました。休憩時には、大仲さんより実際の果実を用いて出荷規格であるM～3Lの大きさと赤秀・青秀の階級の見本も紹介していただきました。

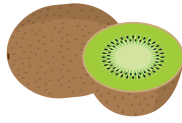


佐那河内村では、平成29年度より果樹の栽培技術の向上と継承を目的に、『佐那河内果樹アグリスクール』を開校しています。令和5年度は、11名の参加があり、9名が修了しました。今年度は、徳島市中央卸売市場への見学を4年ぶりに開催したほか、新たに「中晩柑と柿について」の講座を行いました。

「キウイの収穫・貯蔵」

令和5年11月1日(水)

講師 市原 善文さん



収穫園地に行く前に、農業振興協議会で行った圃場審査で優秀賞となった大西さん園地および講師の市原さんの園地の見学をしました。収穫園地である日下さんの園地に到着後、最初に、講師の市原さんよりキウイフルーツ部会の収穫・貯蔵打合せ会の資料を基に、出荷規格や販売実績の推移のお話がありました。収穫したキウイは、JA徳島市果樹選果場で共同冷蔵するほか、個人でも冷蔵しており、市場要請に応じ、順次出荷をしていくとのことでした。収穫したキウイを丁寧に扱うことや傷のある果実は除けるなど収穫の注意事項を聞いた後、実際にキウイを収穫しました。その後、JA徳島市南部営農経済センター果樹選果場に場所を移し、井上場長から貯蔵や選果機の説明を受けました。



「中晩柑と柿について」

令和6年1月26日(金)

講師 徳島農業支援センター
徳島ブランド推進担当 福田 雅仁さん

柿は完全甘柿・不完全甘柿・完全渋柿・不完全渋柿の4種類あるとのこと、渋抜きには、アルコール脱渋・炭酸ガス脱渋・樹上脱渋があり、渋みは可溶性タンニンが原因であり、「アセトアルデヒド」と結合することで不溶化し渋みが抜けるとのことでした。干し柿は皮むきにより果肉表面に皮膜が生成され、呼吸が阻害されることで果肉中にアセトアルデヒドが蓄積することで渋みが抜けるとのことでした。剪定や施肥の話もあり、柿の栽培等について詳しく聞くことができました。中晩柑のお話では、中晩柑とは1月から5月に収穫される温州みかん以外の柑橘の総称で、形・大きさ・味が多種多様であるとのこと、中でも村内で多く生産されている「不知火」について詳しくお話を聞くことができました。不知火の生産では、乾燥に弱いことから、夏場の灌水が大切なことや、結実期間が長いことから果実肥大が旺盛な時期に肥料を切らさないこと、大玉化させるために葉果比100前後を目安に摘果することなどのお話がありました。剪定や施肥・貯蔵の話もあり、生産に必要なお話を聞くことができました。



「接ぎ木について」

令和6年3月18日(月)

講師 西岡 優さん



接ぎ方は、はぎ接ぎ、芽接ぎ、腹接ぎ、切り接ぎがあり、樹液が動き出してからは、簡単に皮を剥くことができるため、はぎ接ぎが一番接ぎやすい方法であるとのことでした。穂木と台木の形成層同士を接ぐことがポイントであり、接いだ後は接ぎ木テープなどで被覆し、芽が出だしてから少し穴を開けて芽の伸長を助けることなどのお話がありました。接ぎ木テープは芽が出だしてから穴を開ける必要のないテープもあるとのことでした。実際に腹接ぎの仕方を見せていただいた後、枝を台木に見立てて、穂木の切り出しから接ぎ木テープでの被覆までの作業を行いました。



「常緑果樹の苗木植え付けについて」

令和6年3月18日(月)

講師 徳島県立農林水産総合技術センター
高度技術支援課 板東 康成さん

第8回講義「苗木植え付け準備」で実習した園地において、苗木の植え付けの実習を行いました。初めに講師の板東さんから、資料をもとに苗木の植え付けから植え付け後の管理までのお話がありました。植え付ける際の注意として、植え付け時期は3月下旬から4月上旬の発芽前までに行うこと、根は傷んでいる部位以外はできるだけ切らず、細根はそのままにしておくこと、根を広げて下の根から順に土をかけ、根が土に付くように軽く押さえること、接ぎ木部が地上に5センチ程度は出るように土をかぶせること、かん水は土俵状の輪を作り十分かん水することなどのお話がありました。1本の苗木の植え付けを見せていただき、受講生数名で1本の苗木を植え付けました。その後、全員でマルチ被覆や苗木の固定、あんどんの設置などを行いました。



令和6年度 佐那河内果樹アグリスクール申込書

佐那河内果樹アグリスクールに次のとおり申し込みします。

令和 年 月 日

住 所	〒
(ふりがな)	
氏 名	
生 年 月 日	昭・平 年 月 日(歳)
電 話 番 号	
募 集 対 象 (該当に○印)	①新規就農者 ②農業担い手 ③Uターン ④Iターン ※②農業担い手の方は、世帯内で果樹の出荷実績のある方が対象です。
佐那河内村への 関わり (該当に○印)	①村内で耕作している。(農地を所有もしくは借りている。) ②農地は無いが村内に住んでいる。 ③今後、村内で耕作予定。(農地を購入もしくは借りる見込み。) ④佐那河内村に関わりは無いが、果樹の勉強をしてみたい。 ⑤その他【具体的に記入してください。】 () ※④⑤の方は、資料代等として5,000円が必要です。
現在栽培の作物	
とくに学びたいこと	
受講後の展望	村内で耕作している方(耕作予定含む) ①栽培面積を増やしたい ②現在の耕作地で秀品率を増やしたい ③その他()
	村外で耕作している方 ①村内で耕作してみたい ②現在の耕作地で秀品率を増やしたい ③その他()

※お申し込みいただいた個人情報は、佐那河内果樹アグリスクールの事業以外には使用しません。